

Y8-13

当院における内視鏡外科研修システム

前橋赤十字病院 消化器病センター 外科¹⁾、
前橋赤十字病院 臨床工学課²⁾

○富澤 直樹¹⁾、小川 哲史¹⁾、安東 立正¹⁾、
田中 俊行¹⁾、荒川 和久¹⁾、清水 尚¹⁾、
濱野 郁美¹⁾、榎田 泰明¹⁾、五十嵐 隆道¹⁾、
池田 文広¹⁾、池谷 俊郎¹⁾、浅沼 恵子²⁾

【初めに】腹腔鏡下手術の普及に伴い、その安全性を担保しながら、いかに後進に指導を行うかが課題である。また新しい術式の導入についても、合併症を少なくする工夫が必要である。当院外科におけるレジデントや外科専門医への指導経験、新規術式の導入経験について報告する。

【対象と方法】対象は後期レジデントや外科専門医・指導医など経験年数等もさまざまである。JSES認定医をとりあえずの到達目標とし、当初1人であったものを集中的修練で2人に増やし、手術をその2人を中心に構成し指導を行った。レジデントにはドライ・アニマルラボでの鉗子操作練習、ビデオによる教育を行った。助手数例の経験をつんだ後、腹腔鏡下虫垂切除の(LA)の術者を経験させた。症例は低難易度のものから始め、困難症例は術者の交代を行った。外科専門医に対してはLA経験後、段階的に腹腔鏡下胆嚢摘出、大腸切除、胃切除の順で経験を積むようにした。また鏡視下食道切除のように高難度の手術の導入に関しては、外部から指導医を招聘し安全性の担保とした。

【結果】この方法により腹腔鏡下手術の教育が比較的スムーズに行えた。また新規術式の導入に際しても大きなトラブルはなかった。

【まとめ】今後は内視鏡外科を導入している他科との連携を深め、手術器具や周辺機器などの統一を図り、センター化した教育システムの構築を目指している。

Y8-14

医療機器の取り扱い訓練施設の開設と運用

姫路赤十字病院 臨床工学技術課

○三井 友成、深井 秀幸、土居 新宗、
後藤 唯姫

【はじめに】当院では、医療機器安全管理責任者に臨床工学技士が任命されている。その業務の1つとして、医療機器の研修と安全教育がある。今回、医療安全委員会と連携し、職員全員が利用できるクリニカル・スキルス・ラボ：医療技能研修室（以下ラボ）を2008年3月に開設したので報告する。

【施設概要】ラボは、臨床研修棟の3階に、電子カルテ研修室に併設して設置され、面積は約40平米である。ラボには、静脈採血シミュレータ、筋肉注射シミュレータ、中心静脈穿刺シミュレータ、吸引シミュレータ、導尿シミュレータ、除細動装置、輸液ポンプ、シリンジポンプ、生体情報モニタ、フットポンプ、手術用顕微鏡、人工呼吸器、内視鏡手術、上部・下部内視鏡、ACLSトレーニングシステム、気道管理トレーナー等を設置している。また、ビデオ学習やスライドによる講習が可能ないように37型の液晶モニターも設置した。施設はいつでもトレーニングが可能ないように、職員カードで受付を済ませれば、24時間365日利用できるようにした。

【研修内容】ラボでは、臨床現場でいきなり医療行為をするのではなく、練習して技能を高めてもらうためのトレーニングを提供している。また、病室を再現したブースでは、ベッドサイドの患者急変時の対応を訓練することが可能である。それ以外に重症患者のベッドサイドの環境を再現し、人工呼吸器、輸液ポンプ、生体情報モニタ、除細動装置の操作を個人学習やチームで学ぶことも可能である。また、新入看護師には、病棟で使用する医療ガスの取り扱い方法や停電時の電源供給方法について入職研修時に指導している。これらの設備の備品や消耗品の交換も含めてME室で管理している。